

神戸女学院 2023年度クリスマス礼拝を実施

コロナ禍以前の形式を回復—世界平和とひとりひとりの健やかな歩みを祈って

神戸女学院は、12月22日（金）に2023年度クリスマス礼拝を執り行いました。世界的なコロナ危機が落ち着きを見せる中、4年振りに学外の皆様をお招きし、世界平和、また悲しみと困難にある方々の平安を願う祈りを共にいたしました。



4年ぶりに一般参加者をお招きしたクリスマス礼拝をメディアに初公開

世界平和とひとりひとりの健やかな歩みを願う祈り。

世界各地で戦争や災害など心痛めるニュースばかりで明け暮れた今年、私たちは、こうした年だからこそ、この祈りを広く皆様とともにいたしたく、150年近い神戸女学院の歴史上、初めてクリスマス礼拝をメディアの皆様にご公開しました。

当日の様子

重厚かつ溫柔なパイプオルガンの前奏が続くなか、舞台上で厳かに灯が受け渡されるキャンドルサービスが行われてクリスマス礼拝が始まりました。音楽学部オーケストラの演奏に乗って合唱が、そして選ばれたソリストによる独唱と美しい歌声が響きます。

院長によるクリスマス・メッセージと祈りにより、会衆の平和を願う気持ちが一つにな



り、そして、いよいよクライスト・キャンドル点火の時を迎えて、クリスマス礼拝は最高潮に達しました。

歌声と祈りは、なお止むことなく続きます。

・参加者の声：神戸女学院大学 心理学部1年 Y.H.さん

初めて参加してみて感じた「クリスマスの本当の意義」

クリスマス礼拝に参加するまで、自分にとってクリスマスは「プレゼントがもらえる」などの日常的なイメージがあっただけでした。しかし今回初めて参加したことで、聞き慣れたクリスマスソングに込められた人々の思いに気づくなど、これまで当たり前だと思っていた様々なことの深い意味を感じるとてもいい機会になりました。来年以降もぜひ参加したいです。

参加のきっかけは学内での他学部生とのコミュニケーション

今回参加したきっかけは、授業で出会った他学部の友人との会話です。神戸女学院の魅力として他学部の学生とコミュニケーションをとる機会が多いことがあげられますが、授業で出会った音楽学部の友人に「私も演奏に参加するからぜひ来てみて」と言われたことが参加の契機となりました。入学時想像していた時より、ずっと多くの人と知り合う機会があり、楽しんで学んでいます。

・参加者の声：宝塚市在住 92歳女性

初参加時の素敵な雰囲気魅せられ、通算40回以上参加するクリスマスの定番に

クリスマス礼拝については、神戸女学院の同窓会「めぐみ会」の方からお聞きして知りました。当時は自由に参加できたため、毎年参加していたのですが、初めて参加した時には「なんて素敵なんだろう」と魅せられたことを今でも覚えています。有志の学生達が一生涯懸命に努力をし、演奏を織りなす姿に心から感動しました。

4年ぶりの一般参加枠募集の喜び

4年前からコロナ禍になり、礼拝に参加できなくなってしまった事については、当時は非常に残念に思っていました。今年ようやく一般からも参加できるようになり、とても嬉しかったです。実は私の応募は外れてしまったのですが、知り合いの方が当選して、年齢をご配慮いただきその方が私の付き添いということで参加できることとなり、ご縁に恵まれたと感激しました。来年も参加できることを心待ちにしています。



・理事長・院長コメント

1973年から続く歴史あるクリスマス礼拝

本プログラムは、1960年代末に学内関係者向けの礼拝の中でお招きした牧師様より、「素晴らしい礼拝なので、多くの人と守ってはどうか」と提言をいただいたところから始まりました。学内の様々な関係者と意見を出し合いながら共に準備し、1973年から「公開クリスマス」という名称で開始し、ちょうど50周年の年に至りました。

4年ぶりに一般のお客様をお迎えし「希望が広がる」クリスマス礼拝に

本プログラムでは「喜びを多くの人と分かち合い、希望を共有する。その希望が、多くの人々を通して更に広がるよう祈りを共にする。」ことを大切にしています。災害や紛争など様々な事象に心を痛め、恐怖や戸惑いを覚えることの多い時代だからこそ、改めて私たちが「互いに支え合わなければならない」という聖書のメッセージを共に確認できれば幸いです。

クリスマス礼拝を守ってきた長い歴史のなかで、変わらず大切にしていること

クリスマスは祝祭のイメージが強いですが、クリスマス礼拝はショーのようになってはいけないこと、さりとて画一的になってもいけないことを意識しています。関わる人たち全員で意見を出しあい、奏楽・プログラム・照明・装飾など、あらゆる分野でクリスマス礼拝本来の意図が伝わるよう趣向を凝らしています。

理事長・院長 飯謙 プロフィール

神戸女学院理事長・院長。明治学院大学社会学部を卒業後、同志社大学神学部およびスイス・バーゼル大学に神学を学ぶ。1983年、神戸女学院大学文学部助手に就任。1995年、教授。チャプレン、学生部長などを歴任した後、2009年より2015年まで学長。専攻はキリスト教学、聖書学。



・プログラムディレクター（大学職員）コメント

幼稚園児の頃に出会ったクリスマス礼拝の背後には、多くの人々の支えがあったことを実感

私が初めて学院クリスマスに出会ったのは、両親に連れられて参加した幼稚園児の時でした。以降、中高部生時代には出席者の1人として、大学生時代にはボランティアスタッフとして、そして今は職員としてこれまで様々な形で関わる中で、改めて本プログラムが多くの人の支えにより成り立っていることの素晴らしさを強く感じています。



学生が奏楽者・ソリスト・スタッフとして参加する特別な行事

クリスマス礼拝は表舞台で美しい音色を奏でる音楽学部の学生だけでなく、照明や会場設営などに携わる有志の学生にも支えられた、特別なプログラムです。自然な形で祈りの場に加わり、キリスト教主義に触れていく伝統が長く守られていることにとても深い意義を感じています。

一般のお客様に「すごかった」と感じていただけるクリスマス礼拝を

クリスマス礼拝は、「よかった」「すごかった」という来客の皆様からの率直なご感想に直接触れることができる貴重な機会でも感じています。ご来場いただいた方には、美しいキャンパスに鳴り響く荘厳な音楽を聞いていただき、世界の人々の平安を祈る思いをひとつにすることの素晴らしさを体験していただき、そして神戸女学院を好きになっていただけたらな、と考えています。

西岡麻祐子 プロフィール

神戸女学院中学部・高等学部を経て、2016年3月同大学人間科学部心理・行動科学科卒業。病院での社会人生活をスタートさせたものの、教育業界への夢を諦めきれず2017年5月より神戸女学院大学でアルバイト職員として勤務、2019年4月より専任職員として神戸女学院に入職。チャプレン（学校・病院などに所属する牧師）とともに神戸女学院のキリスト教主義教育を支え、充実した日々を送っている。



・指揮者・ソリストコメント

4年ぶりに一般のお客様をお迎えする喜びを感じながら演奏

毎年クリスマス礼拝に指揮者として臨んでいますが、あくまで演奏会ではなく礼拝の場として、会場の皆様と同じ気持ちを分かち合うことを変わらず大切にしています。特に今年は4年ぶりに一般の皆様をお迎えできるということで、ようやくだな、と嬉しい気持ちでいっぱいです。（指揮者：松浦）

歌に込められたメッセージを伝えるために

実はオーケストラの方々と合わせて歌うのが初めてのことだったので、とても緊張しましたが、「言葉を伝えること」をいつも以上に強く意識して大役を果たすことができました。子音を強調することによりフレーズがどのように伝わるだろうか…など、歌に込められたメッセージがしっかり伝わるように意識しました。（ソリスト：川井）



イエス様の誕生日の情景が心に浮かぶ

楽曲を練習しているうちに歌詞の表す情景が心に浮かび、意義深く感じられました。ご参加いただいた皆様に歌詞の意味やメッセージ・情景が伝わるよう、心を込めて歌いました。(ソリスト：工藤)

在校生のみならず外部の方を迎えて共に守る、荘厳なクリスマスの雰囲気

在校生のみのクローズドな空間ではなく、一般の方をお迎えして共に守れるクリスマス礼拝は、神戸女学院ならではの行事だなと感じています。お越しいただく方にもクリスマス礼拝の魅力がより伝わっていれば嬉しいです。(ソリスト：石田)

指揮者：松浦 修 プロフィール

広島大学教育学部卒業後、アメリカ・Ball State University 大学院指揮科 (Master of Music)、英国王立音楽院大学院指揮科 (P.G.Dip.)、東京藝術大学大学院指揮科に学ぶ。神戸女学院大学音楽学部准教授。同学部でオーケストラ/ウインド・オーケストラ/指揮法等多くの教科を担当している。また新日本フィルをはじめとする国内主要オーケストラに客演し指揮者としても活躍中。



音楽学部音楽学科声楽専攻

3回生 (カッコ内は独唱曲名)

川井あい子 (クリスマスの子守歌)
石田桜子 (あなたの心に小さなメリークリスマスを)
工藤万李花 (世界中でいちばん素敵なお誕生日)

